

会 議 録

1 会議名

平成29年度第6回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

平成29年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成29年8月9日（水）午後6時00分から午後7時46分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（会長）、増田和昭（副会長）、泉 秀夫、磯田一裕、伊藤邦雄、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、小林克美、田中美佳、田村利男、田村雅春、中澤武志、町屋隆之、丸山朝安、水澤敏夫（欠席2名）

- ・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、荒木係長、星野主事

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山恭造会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：田村雅春委員、中澤委員に依頼

議題【協議事項】平成29年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

- ・協議の流れについて説明
- ・各提案（6件）の概要説明

【青山恭造会長】

それでは、各提案に対し、意見や疑問点等があるか確認していく。

最初に「No.1 福島城の顕彰事業（追加募集）」について、何かあるか。

【町屋委員】

資料館が古城小学校内の旧デイホーム古城に移ったということだが、今まで使っていたトイレは使えないのか。

【荒木係長】

旧デイホーム古城が廃止されてから数年が経過しているため、配管等が腐敗して整備が必要な可能性がある。提案者も新資料館に多くの方から来館してもらいたいと思っているが、すぐにトイレを整備するのは難しいとのことから仮設トイレを設置したいということである。

今現在は、トイレは整備されておらず、不便を掛けている状態である。古城小学校のトイレを利用できるかと言うと、不特定多数の方が学校に入るというのも難しい面があるので今回の提案に至った。

【町屋委員】

資料館が常設になったにも関わらずトイレだけは仮設で、とりあえず3か月分のトイレを確保するというのは不十分のように感じるが、もう少し違った後押しの仕方もあるのではないかと感じた。

3か月間のレンタルになっているが、これを使い続けるとかなりの額になる。それなら5万円や10万円で錆を落としてトイレが使えるようであれば、そちらのほうも考えていただくよう検討していただきたい。

【田村雅春委員】

提案書に「次年度以降は、会で負担できるよう会員を増やす取組や協賛を集めるなど対応していきたい」とあるが、先回の話で当会も縮小しているような話を聞いたので、将来展望もきちんと示していただけると私たちも後押ししやすい。

【青山恭造会長】

それでは、提案者に質問し、回答を見て判断したいと思う。

【泉委員】

建物は、資料館から小学校側へは閉鎖されており物理的にも学校のトイレを使うことは難しいし、提案書を見ると、かなり見学者が多いようなので、仮設トイレを1基置くのではなく、もう少しお金を掛けて、きちんとしたトイレを造ってもいいのではないかと。

もう1つは、今まで、福島城の事業にかなりお金を掛けてきたので、今後、福島城に係る取組を「福島城を愛する会」だけに任せておいてよいものかと思う。

【青山恭造会長】

それは質問事項ではないので、まずは団体が今後の方針を問題として、地域協議会に投げ掛けていただければよいのではないかと。

【町屋委員】

民間の契約なら常設のトイレを貸主の責任で使えるようにすると思うが、現在の場所を貸してくれたのは市であるので、地域活動支援事業とは別に、直江津区地域協議会で別の形で市にお願いするとか、直すのにお金が掛かるのであれば、次年度で提案するとか、行政と折半するとか、そういうことも必要なのではないかと。

【泉委員】

旧デイホーム古城は構造上、展示場等で利活用することは想定していないので、借用に当たり、使用上の制限があるのかもしれない。

【青山恭造会長】

その可能性はある。行政の設備なのでいろいろな制約があると思うが、我々はその契約内容を知らないなので、質問してはどうか。

【小林委員】

事務局に確認だが、用地管財課から何か聞いているのか。

【荒木係長】

すぐには整備できないという回答が用地管財課から団体へあったと聞いている。

【滝澤センター長】

元々市の施設で、団体のためにお金を掛けて整備する、ということは最初の入り口としてはないと思うが、どのように話し合いがされたのかについて、事務局から用地管財課へ確認を行う。

【青山恭造会長】

そのようにお願いしたい。

次に「No.2 私の街の防災力向上を図る事業」について、何かあるか。

【町屋委員】

防災士会はどういう団体なのか。

【泉委員】

上越市出身で防災士の資格を持っている方たちが主になって活動しているのが上越市防災士会である。防災士は500人くらいいるが、各地域の細かな所まで手が行き届かないため、各自治区単位で支部を作っている。

当会直江津支部は、各町内にいる防災士の技量がバラバラのため、防災士同士が情報共有しお互いにスキルアップを図りながら、「大規模災害が起きたら3日間は何とか生き延びなくてはいけない」という使命のもと活動しよう、という趣旨で立ち上がったものである。

当会直江津支部では、大きな問題は、広域大規模災害と考えていて、例えば、直江津小学校区の場合、大規模災害時には、荒川町・横町・本町・天王町・沖見町の方々が直江津小学校に集まるが、各町内の自主防災訓練において、避難所へ来た時の運営訓練まで実施している町内は少ない。避難してきた住民を受け入れるための運営部分として、事前に避難所での訓練も行っておくべきである。

【水澤委員】

大規模災害が起こった際の避難所において、誰が主導するのか。各町内会で独自性を持っているが、それはどうなるのか。

【泉委員】

例えば、レインボーセンターの避難所の場合、レインボーセンターに近い町内の人は早く集まりやすく、その方たちが主導権を握るかもしれない。主導権を握った方たちがほかの町内の事情を分かっている主導権を握ってくれるのか、その辺が曖昧になってくると思っている。誰が主導権を握っても良いように先に訓練を行っておくことが重要だと思う。町内会単位では町内会長が中心となってやると思うが、避難所に集まった際、町内会長が何人もいることになる。有事の際にスムーズに対応できるよう、事前に調整をしておきたいという目的がある。

【伊藤委員】

五智地区に関して言えば、全てが国府小学校に集まるのではなく、各町内で単独の避難所があったり、加賀町については春日小学校へ行っても良いということになったり、

国府小学校に石橋1、2丁目の方が来ても良いということになっていたりする。

防災の話だと、各町内会で防災組織が出来ていてきちんと動けるが、そこに防災士がいたとしたらすぐに避難所へ行っていただき、避難所で早めに対応できるような組織を作っていただきたいという話を国府小学校で各町内会と打ち合わせしてきた。

防災士の方々は知識もあることから避難所へ行った際は行動できると思っており、受付からしなければいけないと思うが、防災士の方々だとどこの町内会かが分かるかと思うので、エリアを決めて対応してもらいたい。

要は、防災士会が出来上がることによって各町内のやり方が出来てくると思っている。

【水澤委員】

その連携がうまくできるかということが心配である。

【町屋委員】

最初に提案書を見た際、防災士の研修なのか、地域を巻き込んで研修をするのか、地域を巻き込んだ場合、きちんと成り立つのかと感じた。だが、この事業を実施すれば皆さんが感じている疑問等が解決できるのではないか思った。そのような認識で良いのか。

【増田副会長】

提案書に「調整を取って行う」と書いてあるので、そこはお任せすれば良いのではないか。実施することによって水澤委員が心配されている点も順次調整されていくと思っている。問題は、行政が防災士会に任せているような体制になっている。安心・安全に関わることを、行政がどこまで責任を持ってやるか、という部分が抜けている。当事業については安心・安全に関わることなので地域活動支援事業で出さざるを得ないと思うが、直江津区だけやって、他区への目配りはどうするのか、防災士会に任せきりで良いのかという疑問は残る。

【田村雅春委員】

町内毎にある自主防災組織は、ほとんど町内会長が代表になっている。そして、行政からの連絡は防災士には来ない。必ず、町内会長を通じて話をしている。先ほどの話だと、避難所では防災士が主導権を握るような話をしてきた。町内の方にも、避難所では防災士の方々が対応します、と言っておかないと混乱するのではないか。

【泉委員】

当提案事業や避難訓練等で恩恵を受けなくてはいけないのは住民である。有事の際、防災士が先頭に立って行動するかと言ったら、混乱していて難しいかもしれない。自主

防災組織の代表は、ほとんど町内会長にやってもらっていると思うが、それをバックアップするのが防災士である。有事の際にバックアップできるようなことをやりながら、要請があればその時にお手伝いするということである。

【田村雅春委員】

私が言っているのは、私の町内の避難所は春日中学校だが、かなり人数が多い。避難所が開設されたら行政が町内会長へ伝え、町内会長を通じて住民に伝わり、今後の動きを現地で考える。だが、春日中学校の体育館へ行ったらどこへ行けば良いのかがよく分からないので、その辺を聞きたかった。

【青山恭造会長】

まずは、町内会長協議会への説明が必要だと思っている。中澤委員に確認だが、町内会長協議会としては、その辺の話は聞いているのか。

【中澤委員】

もちろん聞いている。

【青山恭造会長】

本来は、共同提案にしていたきたかった。組織のトップが誰なのかが分からなくなってしまったので、このような質問が出てきたのだと思う。

【中澤委員】

行政主導で行っている避難訓練には限界がある。避難所へ行くだけの訓練である。避難所に来たらどのように仕切って、どのように生活していくかという訓練はしていない。それはこれからであり、課題も残っている。

防災士会を作るという話は直江津地区の全町内会長にしてあるので、今後、どのように進めていくかを話し合っていく。

【磯田委員】

防災士の資格を持っている方々はきちんと勉強し防災士になられたのだと思うが、有事の際、現場に入った時にどう動くか、どう安全をマネジメントしていくか、町内会の組織の中で、どう動けば一番スムーズに動いていけるかというスキルを、更に勉強しようという提案なのだと思う。

やはり防災士の人がしっかりとマネジメントしていく、という話があってこそだと思っている。

【増田副会長】

そこを間違えると、中澤委員の話と食い違ってくる。真実は中澤委員が話したとおりである。今後どうしていくかは、今後調整していくということなので、この場で結論付けることではない。あくまでも防災士会というのは任意の団体で、町内会の自主防災組織をサポートする役割である。そこを間違えないでいただきたいと思っている。

【水澤委員】

提案書だけではそこまで分からない。

【町屋委員】

直江津支部の方々は何人くらいいるのか。

【泉委員】

全部で34名であるが、防災士が一人もいない町内もある。

【青山恭造会長】

では次に「No.3 直江津地域伝統文化伝承・保存事業」について、何かあるか。

【町屋委員】

地域活動支援事業に提案している以上は、一人でも多くの市民が見られるようにしていただきたいと思っている。会場やポスターの配布先等を検討していただきたい。

それと、ピンマイクを買うことはどうなのか。

【増田副会長】

それは質問で出していきたい。

【磯田委員】

当提案に限らず、学校運営に関わることは各学校で行っているが、地域活動支援事業として当提案を採決する時、直江津小学校区だけで完結する話なのか、どこまでだったら、地域支援として認められるのか。それは採点の際、個別判断で行くのか。

【青山恭造会長】

それは質問で出していきたい。

【町屋委員】

磯田委員の質問に関しては、協議会内で協議する内容なのではないか。

確かに、PTAの事業ならPTAで行うべきだ、という話が昔あったと思うが、私は、この事業を是非やっていただきたいと思っている。やっていただく以上は、当事業を小学校だけの事業にするのではなく、出来るだけ広く、還元先が地域全体になってほしい。ただ、ピンマイクの購入だけは、レンタルでも良いのではないかとと思っている。

【増山副会長】

磯田委員が言っているのは、「青少年育成事業」というのは幅が広い。ここから断片的に出てきた時に地域協議会としてどのように考えるか、ということがある。それは、どこかで一度話をしておかないといけないと思っている。小出しに出された時に、基本的にはどうなのかということを確認しておかないと、私たちも迷ってしまう。

【磯田委員】

一度採択してしまうと、同様のものが出てきて、採択しなければいけない状況が出てくると思っている。

【田村雅春委員】

当提案は直江津小学校だけを強調しているように思う。もう少し直江津区全体に拡げることにはできないのか。事業の対象者に地域住民と記載されているが、直江津小学校だけに拘っている印象を受ける。

【町屋委員】

提案書の支出の費目で「映画上映料」とあり、その内訳に基本料金と入場者数が記載されている。そもそも制作側は映画を3万円で貸し出し、入場料として1人500円ということで借りてくる映画なのだと思う。本来、500円の入場料を取らなくてはいけなかったところを、あえて無料でやりたいから地域活動支援事業で見てくれないかということで提案してきているのだと思う。その考え方は「あり」なのか「なし」なのか。私たちから「もっと広く地域のためにしてください」となったらこのお金がどんどん上がっていく。より多くの方に見ていただきたいのに支払額が増える。これは形としておかしいのではないか。やはり、入場料くらいはきちんと取り、その中で、直江津小学校が小学校行事でもやりたいのであれば、小学校の関係者の分は直江津小学校に負担してもらおうということにし、それ以外の方からは500円徴収するというのが筋ではないか。

【増田副会長】

私たちの今までの考え方としては、一部受益者負担という考えで貫いてきている。ただ、今回の場合は、教育的要素が非常に強いという部分から考えて一部受益者負担を求めたほうが良いのか、それとも教育的要素が多いので求めなくても良いのか、そこが判断基準の一つになると思う。

青少年育成事業で、直江津区で当事業が採択されたら他校でも提案が出てくるかもしれない。そうなった場合、どのように判断していくか。町内会単位で出てきた時は、歯

止めを掛けながら採択してきた。だが、当事業のような提案の判断は非常に難しいと思うので、一概には答えが出せないと思っている。

【町屋委員】

私の中では、支出の部分だけ切り取ると、何故無料なのか、というのがある。1人500円徴収してください、というのが主催者側のオーダーで借りてきている。私たちが広く地域に波及させたいとなっていて、1,000人来たら成り立たない事業になってしまう。

【中澤委員】

上映日である11月11日というのは、「直江津小学校教育の日」ということで何年もやっている。ただ、毎年同じようなことをやるのはどうかということで、今回の提案が出てきたのだと思う。もし、これが良い映画であれば、ほかの学校や地域に拡げてほしいと思っているので、まずは直江津小学校でやってみても良いのではないか。あまり、教育的だとか、受益者負担をすべきだとか、そういう話に持って行かず、こういう企画がどうかというところから話し合いをできないものか。

【町屋委員】

私が言っているのは、良い事業だということは分かっているので、より多くの方に見ていただくためのやり方はないものかということである。

【中澤委員】

提案団体に直江津区全体に広めていく力があるのかということになる。この団体がやれるのは、提案されている範囲だけなのではないか。

【町屋委員】

それなら、地域全体に波及しないコアな事業としての判断しかできないことになる。

【青山恭造会長】

この事業がうまく行けば、地域全体に拡げていくことはできますか、というような質問をすれば良いのではないか。

【丸山委員】

上映料が24万3,000円となっているが、人数が多くなっても、少なくなっても変わらないのか。

【田村雅春委員】

1日に何回上映しても、24万3,000円が上限なのではないか。

【泉委員】

入場者数が何人でも掛かる経費は変わらないのではないかと。

【町屋委員】

限られた小学校や会員限定であれば、あまり賛成できないので、少しでも拡げていただきたい。

【小林委員】

直江津南小学校で数年前に同じ映画を上映したが、とても素晴らしい映画だったので皆さんに見ていただきたいと思っている。

【青山恭造会長】

次に「No. 4 《直江津港から元気発信》事業（追加事業）」について、何かあるか。

【泉委員】

事務局へ確認だが、見積書が添付されているが、相見積もりは取っているのか。

【荒木係長】

見積もりは2社から取っており、金額の低いほうを採用した。

【田村雅春委員】

2点ほど伺いたいのだが、会の規約内に「経費」というのがあり、その中に『補助金』とある。それはどこから出てくるのか。

【増田副会長】

どこからお金が来ようと自分たちで出すと言っているのでは、それで良いのではないかと。

【田村雅春委員】

行政からほかに補助金が出ているのなら対象にならないので確認させていただいた。事務局で当提案を受け付けた以上は、ほかから補助金が出ていないということによろしいか。

【荒木係長】

当事業に関しては、ほかから補助金が出ていない。

【町屋委員】

団体として補助を受けていることは全く問題ない。

【田村雅春委員】

だが、団体が補助を受けて、当事業の自主財源として支出しているのなら間接的に補助を受けていることにはならないのか。

【滝澤センター長】

団体へ確認する。

【田村雅春委員】

願います。

2つ目は、今回、メンテナンス費用も入っているが、次年度以降もメンテナンス費用が必要になってくると思う。その辺はどうか。

【増田副会長】

提案書の次年度以降の見通しに書いてある。確認していただきたい。

【町屋委員】

例えば、これから佐渡へ行こうというお客さんに、直江津に新しい水族館が出来た、という看板を設置したいというのは分かる。当事業は、佐渡汽船ターミナル内に佐渡の原生林をイメージさせるアクアリウムを設置するということが、それが何故新水族館のアピールになるのかがよく分からない。水族館のモニュメントを作って設置したほうが良いのではないか。

【増田副会長】

それは、質問で出して聞いていただかないと分からない。

【田村雅春委員】

佐渡汽船は株式会社だと思うが、筆頭株主は県なのか。水槽が破損して怪我をした場合、どこが責任を持つのか。

【増田副会長】

公の施設に何かを設置する場合は、設置者が責任を負うことになっていたかと思う。

【町屋委員】

当事業は、佐渡汽船ターミナルの飾りを増やそうとしているようにしか思えない。

【泉委員】

当事業そのものは、それなりに意味があるのだと思うが、補助希望額のほとんどが水槽を設置するということに使われているが、それで良いのか。

【町屋委員】

それなら看板を設置する事業と変わらないのではないか。ただ、提示されている金額が費用対効果に見合うかどうかは考えるべきである。

【中澤委員】

磯田委員に聞きたいのだが、直江津まちづくり活性化協議会の中で新水族館部会というのがあり、まちなかに水族館を設けようと動いていると思うが、それとは関係ないのか。

【磯田委員】

関係ないと思う。水族館を核とした7つの事業というのがあり、その中の「まちなか水族館」という名前で直江津駅に水槽を造った。だが、非常にお金が掛かり、維持管理費用も相当掛かっている。更に、まちなかにこういう取組を仕掛けていこうと話をしてきたが、管理等の問題があり、生体観賞をまちなかでやるのが非常に難しい状況だったので、方向性を変え、まちなか水族館をやって行こうという流れになっている。

【町屋委員】

まちなかに増やしたかったら、水槽だけ用意するので自分の家の外で飼っていただけないかというふうにしていかないと、維持管理費までは負担できない。

【増田副会長】

提案書に「市民団体クリエイティブアクアリウムオーガニゼーション」とあるが、水槽を設置することを目的にしている団体で、この団体の目的達成のために直江津港周辺活性化協議会が提案したように感じてしまう。

そして「設置する水槽を直江津区及び直江津港周辺をさらに盛り上げるきっかけとして活用しながら、今後、佐渡寒ブリ祭りや直江津港フェスティバルなどの地域活性化を図る活動に取り組む」となっている。そのまま読むとそうだと思うが、よく読むと、実際この様なことが出来るのかというようなことが書いてある。

【町屋委員】

活性化ができる水槽というのは、どういう水槽なのか。

【増田副会長】

その辺はしっかりと質問していただきたい。

【田村利男委員】

提案書の次年度以降の見通しで「今後の維持管理が重要であると思っており、来年度以降も各企業や団体等から協賛を募り維持管理に万全を尽くしていく」とあるが、全く具体的ではないような文章である。

【青山恭造会長】

では次に進める。「No.5 直江津まちしるべ修繕事業」について、何かあるか。

【町屋委員】

設置してから4、5年が経過しているが、今回、ステンレスプレートを交換することになっている。また4、5年経つと交換しなくてはいけないことになるが、そんなにすぐに劣化してしまうものか。

【増田副会長】

設置してから4、5年経過して傷等が付いているのであれば、また4、5年経過したらそうなるのではないか。

【町屋委員】

設置する時の見通しがあったと思う。地域活動支援事業が続けば良いが、設置はしたが、あとは朽ちていくだけではあんまりではないか。

【田村雅春委員】

開閉の扉は簡単に傷むものなのか。

【小林委員】

傷みが激しいところは、人通りが多いところだと思う。

【伊藤委員】

親鸞聖人の上陸の地にも建っているが、物が小さいうえに小さなビスで止めてある。いろいろなところからお客さんが来て開閉するため壊れてしまう。そして、雨風がひどいので、すぐに扉の中に雨が入り劣化してしまう。

【泉委員】

当初の提案の際、メンテナンスや壊れた場合の修繕はどうするのか、ということに我々も気付かなかった。

【丸山委員】

雨風で劣化しているということもあるかと思うが、道標の上に子ども達が乗って遊んでいるのを見たことがある。ある程度のメンテナンス費用を団体が確保しておかなければいけないのではないか。

【中澤委員】

材質の問題等もあるかと思うが、当初の提案時に高田区で造ったものと統一感を持たせるために同じものを造ったのだと思う。それを全てステンレスに変えるというのも問題が出てくるのではないか。

【青山恭造会長】

次に「No.6 直江津まちしるべマップ作成事業」について、何かあるか。

【田村雅春委員】

今まで作成してきたものと同じようなものが提案されているのではないか。今までとの違いが分かる方はいるか。

【町屋委員】

今回は、直江津小学校と直江津南小学校の3年生、直江津中学校の1年生たちからスタンプラリーをしてもらうための仕掛けとして作成するということなのだと思う。一般の方に活用してもらうよりは、子供向けの活用ではないか。

【増山副会長】

提案書を読めば今までのまちあるきマップ等と何が違うのかが分かるかと思うが、分からない場合は質問をしていただきたい。

【磯田委員】

マップには、当然目的があり、目的別にいろいろ作ってきている。今まで「まちあるき」のマップを作らせていただいて増刷してきた。「まちあるき」のマップは、まちしるべの表紙の絵だけは描いてあるけど、それについての詳しい話はほとんど書いていなくて、主に観光で訪れた人、あるいは、まちあるきを趣味としている方々用のマップとして活用していただくために作ってきた。今回の提案は、20町内に立っているまちしるべをうまく活用していくためのツールとして「まちしるべマップ」作ろうとされていて、それぞれの道標のところには、町内名・町内の謂れ・歴史等が書いてあり、スタンプがある。ある意味、御朱印帳みたいなもので、そこには町内名とスタンプを押せるスペースがあるものである。それと、全体のまちしるべの位置が描かれているマップを作ろうと考えており、それを持ってまちめぐりをし、勉強していただくという地理学習のためのマップである。

形状は、まちあるきマップと同じような形状、同じサイズで作成しようと考えている。

【田村雅春委員】

懸念しているのは、石橋と新光町が入っていない。小学校の子たちが「自分の町内が入っていない」と思われたら困る。

【町屋委員】

確かに言っていることは分かる。例えば、直江津区内の小学校が一所懸命、直江津の歴史を知ろうとやっているが、直江津南小学校区の子ども達の中には祇園祭に参加して

いない子たちもいて可哀想な話だとか。だが、それは授業に取り入れる学校側が、そういうところまで配慮すべきであって、まちしるべが設置されていないということも配慮していただきたいという話である。

【青山恭造会長】

分からない点は質問で出していきたい。

以上で全体協議を終了とする。

次に今後のスケジュールについて事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

- ・資料No.2「平成29年度 地域活動支援事業 直江津区（追加募集）審査スケジュールについて（予定）」に基づき説明
- ・資料「平成29年度 直江津区 地域活動支援事業（追加募集）採点票」に基づき説明

【青山恭造会長】

今ほどの説明に対し、質問等はあるか。

【泉委員】

ヒアリングの実施団体へ実施日を連絡すると思うが、ヒアリングを実施する可能性がある、ということは事前に提案団体へ送付されるのか。

【荒木係長】

提案者へは質問票への回答を依頼する段階で一緒に連絡する予定である。

【青山恭造会長】

では次に7月7日に行われた富岡市視察研修の取りまとめ状況について教えていただきたい。

【荒木係長】

現在、取りまとめをしている段階のため、まとも次第お示ししたいと思う。

【青山恭造会長】

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

- ・次回協議会：8月22日（火）午後6時から
- ・厚生北会館の解体工事について報告

【青山恭造会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。